



発行：新潟市仏教会  
責任者：小林 一三

# 「インドの仏像の起源」 を聴いて

浄徳寺住職 浅平 真

島中光享氏は日本画壇の重鎮であると同時に、インド美術の研究者としても広く知られる。仏像研究のみならず、インドの細密画や染織美術の研究にも優れた業績を残し、またそれらの卓越したコレクションでもある。

今回の講演では、モニターを使いご自身が現地では撮影された写真をもとに、仏像の起源について具にお話いただいた。

釈尊入滅後、その遺骨を釈迦牟尼仏陀と仰ぎ敬うためにストウパーが造られた。遺骨を祀るストウパーは、決して墓として造られたわけではなく、釈尊を敬うために造られたもので、仏像の起源となるものだ。入滅後も釈尊への敬愛は全く衰えることなく続くのだが、その後500年にも亘って仏像は造られなかった。

代わりに、菩提樹・法輪・台座・傘蓋・仏足石など、釈尊を象徴するものや、ジャータカ・仏伝などの場面が、ストウパーの石柵である欄楯や、トローラナという石の門

などに浮彫で刻まれた。その理由として「さとりを開き仏陀となられた釈尊を、畏れおおくも人間の形で表すことなどできなかったのです」と島中氏は語られた。そして、紀元1世紀の後半に仏像は誕生する。

仏像が造られようになった最大の要因は、インドにおける大乘仏教の隆盛にあるという。つまり、在俗信者にとって身近な信仰の対象が生まれ、それが仏像の誕生を促したというのだ。

仏像は、ガンダーラとマトウラーでほぼ同時期に造り始められた。初期の仏像のほとんどは、右手を開き前に突き出した施無畏印という印相の姿であるという。また、施無畏印は説法印ともいい、釈尊が力強く説法をしている姿を表す。

仏像の開いた手に見える曼網相といわれる、指の間にある水かきのような膜は、「多くの衆生を漏らさずに救うための膜」とされているが、実際は「彫刻が壊れにくくすることや、造る際に折れにくくするた



左：世親菩薩 右：無著菩薩

め」なのだそうだ。頷かざるを得ない理由だが、そこはかとなく去来する寂寥感に戸惑う。ともあれ、緻密な調査に裏打ちされたアカデミックな言説に、時折ジョークも交えての講演は、名残惜しくも終演となった。

島中光享氏は、来年に落慶を控える奈良の興福寺中金堂の再建に際し、その堂内に在る法相柱という絵柱に描かれる、14名の法相祖師像制作の依頼を受け、それをこのほど見事に完成させた。

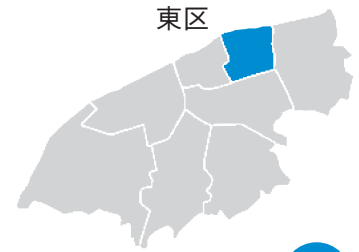
また1月の東京展を皮切りに、法相祖師像他、新作多数が『興福寺の寺宝と島中光享展』の名で全国を巡回中でもある。さらに9月9日から10月15日には、新潟市新津美術館で同展の開催が予定されている。是非ともこの機に、日本画家・島中光享画伯の本領を存分にご堪能いただきたい。



島中光享 降魔 Conquering the devil 2016年

シリーズ 市区八区

東区



## 東区の記事

## そうぞうだ お寺とらららら

延命寺副住職 薄田 孝道

仏教離れ・寺離れが叫ばれている昨今、老若男女問わず参加でき、楽しめるイベントやセミナーなど、新しい試みが各地の寺院で行われている。お寺は元々、お参りする場だけではなく、「学びの場」・「癒しの場」・「気づきの場」であり、地域コミュニティの中心であり、地域になくはならない存在だった。

東区(神明町)にある延命寺でも、「寺コンサート」と称して演奏会を開催している。「寺コンサート」では毎回、エレクトーン奏者の神田将<sup>ゆき</sup>さんをお迎えしている。たった一台のエレクトーンでフルオーケストラに迫るサウンドを奏でる。日本のみならず、海外でも活躍されている日本屈指の奏者だ。そのような世界レベルの奏者に、延命寺で演奏していただくということは本当に有難いことで、神田さんの演奏を聴くために県外からの来場者もいるほどだ。一般的なコンサートホールと比べ、演奏者の技術を間近に見ることができ迫力を感じることができる。お寺とクラシック音楽、意外な組み合わせだが、やってみると違和感はない。昨年で四回目を迎えた神田さんの寺コンサートは、演奏技術は勿論のこと、曲に対しての思いや作曲者の思いを、笑い話を入れながら丁



「演奏は目の前で」



「解説にも熱が入る」

寧に解説をしてくれる。演奏が終わると盛大な拍手と「ブラボー」の声。お寺で心をついにしてお参りすることはあっても、お参りの際にこのような歓声を聞くことはない。改めて、これからのお寺の在り方を考えさせられる。

各地で如何にしてお寺に足を運んでもらうか、それぞれ頭を抱えるところだが、縁あつて始めたエレクトーンのコンスートをきっかけに、まずは一般の方が抱いているお寺のイメージを少しでも変えることで、仏教離れ・寺離れの解決策を探っていきたいと思う。

シリーズ 市区八区



南区の記事

戦没者追悼法要

高念寺住職 廣川 和宏

毎年八月十五日に、新潟市で公として、唯一南区で戦没者の追悼行事が執り行われており、各宗派においても、それぞれの日程で、戦没者追弔法要が勤修されております。

南区の旧味方村は、白根（西白根）・味方・七穂の三地区からなります。合併前は、毎年まず春に七穂地区において、遺族会と共に二ヶ寺により戦没者追悼法要を行い、さらに初夏に村全体で、連合遺族会と共に村内九ヶ寺で追悼法要を行ってまいりました。

村より連合遺族会に補助金をいただき、遺族会々員の会費と合わせ潤沢な予算で、会処は村の公共施設を使用することが出来ました。しかし、合併後は、遺族会への補助金は十分の一以下と大幅に削減され、政教分離・信教の自由を理由に、公共施設の使用も認められなくなりました。

資金の少ないなかで、補助金と会費を積み立てて、どうにか三年に一度、会処は寺院において、七穂地区並びに旧味方村全体で法要を勤修させていただいております。今年も、三年に一度の年にあたり、六月に七穂地区で、七月には旧味方村全体で勤修されます。

遺族会の会員は、年々高齢化し、さらに、会員数も減少しております。市よりの補助金も大幅に削減されるなかで、このままいけば、やがて遺族会を解散せざるをえない状態に陥ることが懸念されます。戦後七十年が過ぎ、戦争を直に知る人は、年々減少し、遠い戦後となりつつあります。

私達は、戦争で亡くなられた方々の痛みと悲しみをしのび、積尊の説かれた「兵戈無用（兵隊も武器もいらぬ）」の平和で平等な世界を願い、心あらたに、真の平和に向って歩んでいかなければならないと思えます。



七穂地区 戦没者法名軸



七穂地区 戦没者追悼法要

『新潟市に区が八区』あることと、仏教語にある『四苦八苦』をかけて、各区の記事を順番に紹介するコーナーです。

新潟市仏教会 役員名簿

Table with 15 columns and 4 rows listing staff members including roles like 会長, 副会長, 監事, 顧問, 事務局長, 理事, and their respective names and affiliations.

興福寺中金堂再建・法相柱柱絵完成記念

興福寺の寺宝と畠中光享展

開催期間：平成29年9月9日(土)～10月15日(日)
開館時間：午前10時～午後5時 (入館は16時30分まで)
休館日：月曜日 (ただし9/18、10/2、10/9は開館) 9/19(火)、10/10(火)
会場：新潟市新津美術館
住所：〒956-0846 新潟市秋葉区蒲ヶ沢109-1
電話番号：0250-25-1300
最寄り駅：古津駅から徒歩約19分



「仏教に造詣が深い日本画家の畠中画伯制作による法相柱柱絵の奉納に先立ち、すべての祖師画を初公開し、あわせて興福寺の寺宝、加えて画伯の代表作・新作も展覧。祖師画は高さ約10メートルにもおよぶ法相柱に貼り上げられたのちは、間近で鑑賞することは難しくなるため、本展は大変貴重な機会となる。」

《編集後記》

十五年も前からか、お寺の中庭の小さな池にモリアオガエルがこ来山。以後、毎年、ことしも来てくれた。うれしさ一入。誰からこの場所を聞いたのか、不明である。だまって来てだまって去っていく。四月下旬頃から初夏の頃まで、お寺の住人ならぬ住蛙。時々、元気な鳴き声を響かせてくれる。雨の日は特によこんで鳴く。

モリアオガエルを見たのは二度、声は聞いたも姿は見えず。水際に直径十〜十五センチ位の泡の塊「卵塊」があった。その中に数百個の卵がある。産卵から二週間ほどでオタマジヤクシになり成長して梅雨の明け頃、生まれた池を離れ林や森に行くのだそう。そしてまた産卵時には、この産まれた池に還って来るという。生命の営みは摩訶不思議である。

「帰家穩坐(家に帰って穩坐す)(出典『大慧書』)」という言葉がある。帰るべきところに帰る、一番安心できる。旅行に出かけ一日二日三日と上げ膳据え膳、布団の上げ下ろしもすべて、至れり尽くせり。異次元の日常を過ぎ、我が家に帰って、懐かしい布団に休んでほっと一息。

私もいつか、帰るべきところに帰らなければならぬまい。

不慣れた編集、ご加護を頂戴。特に執筆者諸師には感謝不尽。後記に代えて(廣林坊)

